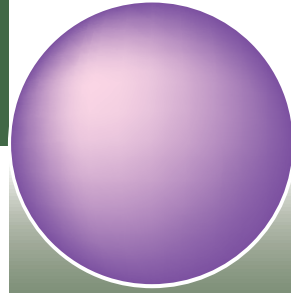


N A B U N K E N 2 0 1 1



奈良

紀要

文化財

研究所



BULLETIN
Nara National Research Institute
for Cultural Properties
2011

Independent Administrative Institution
National Institutes for Cultural Heritage
Nara National Research Institute for Cultural Properties
2-9-1, Nijō-chō, Nara-shi, 630-8577, JAPAN
<http://www.nabunken.jp/>



カンボディア・西トップ遺跡出土の仏像と鎮壇具
 西トップ遺跡第11次調査では仏像の頭部が発見され、それに伴って出土した土器の内部には、青銅製指輪1点・ルビー小玉1点、金小玉1点、金剥片2点、鍍銀銅製品1点が含まれていた。その内容物から鎮壇具の一種ではないかと想定される。続く第12・13次調査においても仏像が1体ずつ発見された。

本文8頁参照（撮影：井上直夫）



紙本著色藤原鎌足像

明日香村八釣地区で毎年正月14日に執り行われる明神講の本尊。談山神社およびその周辺には、現在も多くの鎌足像（多武峯曼荼羅）や講式が伝えられるとともに、地域の人々による礼拝儀礼がのこされている。このたび、本像を含む明神講関連資料を調査した。

本文22頁参照（撮影：中村一郎）



萬翠荘の調査（愛媛県松山市）

萬翠荘は、鉄筋コンクリート造のフランス・ルネッサンス風建築である。旧松山藩主家の久松定謨が大正11年に別邸として建設した。敷地は、松山城が築かれた勝山南麓の谷部に展開し、山の斜面の高低差を活かした建物・庭園配置をとる。

本文 40 頁参照（撮影：杉本和樹）

フィジー・ナバラの伝統的集落の景観

フィジー・ビチレブ島の内陸部にあるナバラでは、ブレ（Bure）と呼ばれる伝統的な家屋形式が整然と立ち並び、周囲の自然と調和した景観を見ることができる。ブレは昼は涼しく、夜は暖かい快適な居住空間を提供するが、維持していくのが困難なので、フィジーの他の地域ではほとんどトタン屋根の建物に置き換わってしまった。

本文 14 頁参照（撮影：石村 智）





藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 163 次調査）

藤原宮造営期の遺構状況を確認するため、4ヵ所の下層調査区を設けた。調査の結果、運河 SD1901A や斜行溝 SD10965、沼状遺構 SX10820 をはじめとする藤原宮造営にかかわる遺構が多数確認でき、従来考えられていたより複雑な造営過程の復原が可能となった。南から。

本文 82 頁参照（撮影：栗山雅夫）

檜隈寺周辺の調査（飛鳥藤原第 164 次調査）

檜隈寺講堂跡の北側にある第 1 区では、谷 SX921 の谷頭部で瓦組暗渠 SX920 を検出した。暗渠は、下に行基式丸瓦を敷き、上に平瓦をかぶせている。暗渠に用いられた瓦は 7 世紀後半の檜隈寺創建瓦だが、暗渠の据付掘方からは 10 世紀の土器が出土した。このことから、後世に檜隈寺の瓦を転用して瓦組暗渠が造られたと考えられる。写真左は SX920 検出状況。写真右は上蓋の平瓦を取り外した状況。いずれも北東から。

本文 126 頁参照（撮影：栗山雅夫）





水落遺跡の調査（飛鳥藤原第 165 次（東区））

齊明朝の漏刻台とされる基壇建物（右上）の北側にあたる部分を発掘した。調査区南側では基壇建物の北側に位置する東西棟建物の北柱列を、調査区北西側では石敷を検出した。後者は写真左下へとつながる石神遺跡の一部である。北西から。本文 106 頁参照（撮影：栗山雅夫）



石敷（奥）と、それ以前に設置された木樋暗渠を抜取るために石敷の上から掘られた抜取溝（中央）、および石敷に先行する時期の土器埋納遺構（手前）。東から。本文 106 頁参照（撮影：栗山雅夫）



甘樫丘東麓遺跡の調査

(飛鳥藤原第 161 次調査)

谷の入口部、尾根の裾部、丘陵上部を調査し、それぞれに 7 世紀の遺構が展開する様子があきらかになった。尾根中腹の緩斜面では、地山を削り出して平坦地を造り出した様子と、尾根をめぐるような 7 世紀の柱列 SA210 を確認した。

写真上は調査区全景（南から）。写真下は柱列 SA210（東から）。

本文 116 頁参照（撮影：井上直夫・岡田愛）





東方官衙地区の調査

(平城第 466 次調査)

東方官衙地区における 4 度目の調査。調査区北半では東西方向の築地塀で隔てられた 3 つの区画に、それぞれ 1 棟の礎石建物（東西棟）を配置していることが判明した。写真手前から順に、礎石建物 SB19405、SB19398、SB19393 が写る。南東から。本文 152 頁参照（撮影：中村一郎）

石組溝 SD19394

調査区北端で検出した東西棟礎石建物 SB19393 の南雨落溝。未加工の安山岩・花崗岩巨礫を側石と底石に用いている。側石の天端は北側石のほうが高い。奥には SB19393 の礎石が見える。西から。

本文 154 頁参照（撮影：中村一郎）





東院地区の調査（平城第 446 次調査）

東院地区西北部の調査。6 時期の遺構変遷を確認した。調査区の中央やや南寄りに、幅約 15m (50 尺) の通路空間が存在することをあきらかにした。東院中枢部への主要な導入路であった可能性がある。東から。本文 163 頁参照（撮影：牛嶋 茂）

井戸 SE19346

6 期の東西通路 SF19344 の北において検出した。内法寸法が 1.8m 四方の井戸枠が 3 段分残存していた。特に下段 2 段分は状態が良好で、柄差鼻栓留の仕口をもつ井籠横板組の構造、加工の技法があきらかになった。南から。

本文 167 頁参照（撮影：牛嶋 茂）





東院地区の調査（平城第469次調査）

調査区中央部の石組東西溝 SD19500 を挟んで、南北に展開する建物群を検出した。建物群は少なくとも6期に区分できる。石組溝や調査区北側（写真右側）では多量の遺物が出土した。奥に第一次大極殿をのぞむ。東から。本文 169 頁参照（撮影：中村一郎）

春日東塔院の調査（平城第477次調査）

春日東塔を囲む春日東塔院の東北隅の調査で、奈良国立博物館と共同で調査をおこなった。L字形に折れ曲がる区画施設の外側の雨落溝を検出した。一部、東塔の造営以前の下層遺構を検出した。北東から。

本文 199 頁参照（撮影：中村一郎）



奈良文化財研究所紀要

2011

独立行政法人 国立文化財機構

奈良文化財研究所

奈良文化財研究所紀要

2011

目 次

I 研究報告	1
企画調整部	
平城宮跡資料館リニューアルの一年	3
漢魏洛陽城－北魏宮城西南隅の発掘調査－	6
カンボディア・アンコール遺跡群西トップ遺跡の調査－第11次・第12次・第13次－	8
カンボディア・アンコール遺跡群西トップ遺跡の建築調査－2010年度の成果－	10
カンボディア・アンコール遺跡群西トップ遺跡出土炭化木材の樹種と年代	12
フィジー諸島共和国におけるESDの調査と実践－サステイナブル・ツーリズムと景観保全－	14
文化遺産部	
都市を文化的景観として見ること－佐渡相川、京都岡崎の調査から－	16
宇治の文化的景観における白川の茶業と家屋	18
文化的景観の持続可能性－生きた関係を継承するための整備と活用－	20
明日香村八釣の明神講関係資料調査	22
遺跡の総合的マネジメント	28
桂離宮庭園「桂垣」の基礎的調査	30
高知県竹林寺客殿の調査	32
ベトナム南部民家の特質－ドンナイ省フーホイ村の調査から－	34
法隆寺所蔵古材調査2－金堂支輪板の顔料分析調査－	36
若狭町熊川宿倉見屋荻野家住宅の調査	38
萬翠荘の立地と庭園	40
古代建築の研究と復元の最前線－日中韓建築文化遺産保存国際学術会議から－	42
都城発掘調査部	
飛鳥池遺跡出土刀装具について	44
掘立柱建物の検討視点	46
高台・峰寺瓦窯採集の瓦磚	48
第一次大極殿院復原検討会とその成果－第一次大極殿院の復原研究1－	50
東西楼・南門の復原案の再検討－第一次大極殿院の復原研究2－	52
大極殿院復原のための類例調査－第一次大極殿院の復原研究3－	54
平城宮第33・70次調査出土冶金関連遺構・遺物の再検討	56
平城宮出土隅木蓋再考	58
平城京と同範の軒瓦の調査－6308 J・Rと安芸国分寺軒丸瓦01A・B－	60
近世・近代遺跡から出土する雪駄の尻鉄について	62
埋蔵文化財センター	
談山神社権殿塗装の材料分析	64

特別史跡キトラ古墳出土遺物の保存処理と調査	66
史跡ガランドヤ古墳における水の挙動に関する調査研究2	68
鉄製遺物の腐食と埋蔵環境(1)	70
平城宮跡の木簡出土深度の土壌環境－国土交通省との共同調査から－	72
藤原宮造営期の馬の骨に認められる骨病変	74

II 飛鳥・藤原宮跡等の調査概要 77

1 藤原宮の調査	79
東方官衙南地区の調査	第162－1次 80
朝堂院朝庭の調査	第163次 82
第128、132、142・144、148、153次調査出土瓦報告	91
2 藤原京の調査	93
左京七条一坊・八条一坊の調査	第166次 94
右京六条二・三坊の調査	第167次 99
右京七条二坊の井戸	103
3 飛鳥地域等の調査	105
水落遺跡の調査	第165次 106
甘樫丘東麓遺跡の調査	第161次 116
檜隈寺周辺の調査	第164次 126
坂田寺SK160出土地鎮具	137

III 平城宮跡等の調査概要 141

1 平城宮の調査	143
平城宮東方官衙地区SK19189の自然科学分析	第440次 144
東方官衙地区の調査	第466次 152
東院地区の調査	第446・469次 163
2 平城京と寺院の調査	179
興福寺南大門出土鎮壇具の内容物	第458次 180
興福寺旧境内の調査	第465・467次 184
興福寺旧境内の調査	第464次 187
法華寺旧境内の調査	第468次 190
薬師寺境内の調査	第474次 192
薬師寺休ヶ岡八幡宮の調査	第475次 195
春日東塔院の調査	第477次 199
左京一条二坊十六坪の調査	第472次 207
左京三条一坊一・二坪の調査	第478次 208

英文目次	210
------	-----

例 言

- 1 本書は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が2010年度におこなった調査研究の報告である。
- 2 本書は、I 研究報告、II 飛鳥・藤原宮跡等の調査概要、III 平城宮跡等の調査概要の3部構成である。Iには企画調整部・文化遺産部・都城発掘調査部・埋蔵文化財センターがそれぞれ実施した各種の調査研究報告を収録し、II・IIIには都城発掘調査部がおこなった発掘調査の報告および補遺を収録した。調査次数は、IIが飛鳥・藤原の次数、IIIが平城の次数を示す。飛鳥・藤原第165次（西区）、平城第478次調査および、2011年1月以降に開始した発掘調査については、本書では概略にとどめ、より詳しい報告は『紀要 2012』に掲載する予定である。
- 3 執筆者名は、各節または各項の末尾に明記した。発掘調査の報告は、原則的に調査担当者が執筆にあたり、遺物については各研究室・整理室の協力を得た。
- 4 当研究所の過去の刊行物については、以下のように略称を用いている。

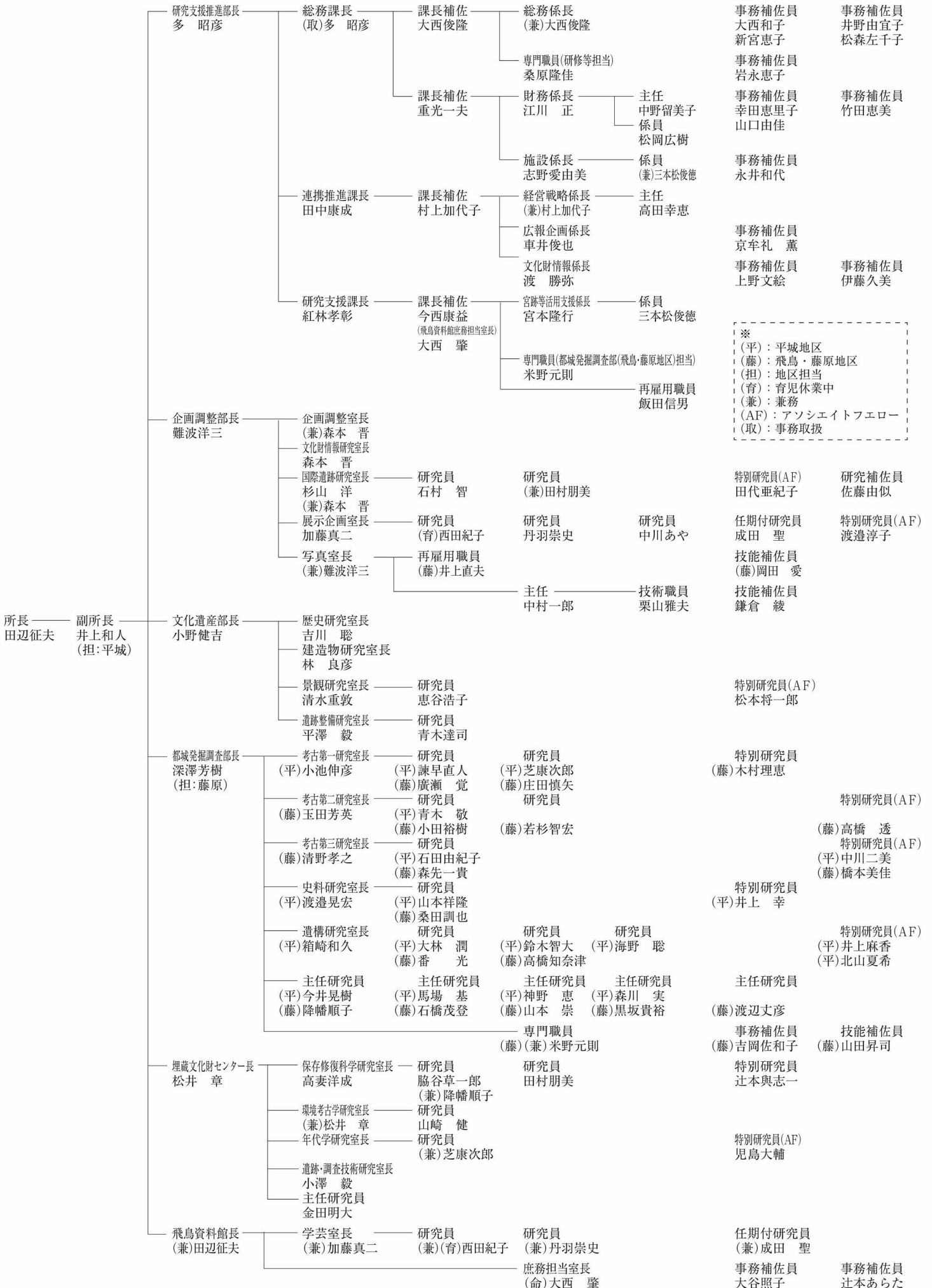
『奈良文化財研究所紀要 2010』	→ 『紀要 2010』
『奈良国立文化財研究所年報 2000 - I』	→ 『年報 2000 - I』
『飛鳥・藤原発掘調査報告Ⅳ』	→ 『藤原報告Ⅳ』
『平城宮発掘調査報告Ⅸ』	→ 『平城報告Ⅸ』
『飛鳥・藤原宮発掘調査概報 26』	→ 『藤原概報 26』
『1995年度平城宮発掘調査部発掘調査概報』	→ 『1995 平城概報』
『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報 14』	→ 『藤原木簡概報 14』
『平城宮発掘調査出土木簡概報 35』	→ 『平城木簡概報 35』
- 5 本書で用いた座標値は、すべて世界測地系による平面直角座標系第Ⅵ系の数値である。高さは、東京湾平均海面を基準とする海拔高であらわす。2002年4月の改正測量法施行以前の日本測地系の座標値を世界測地系に変換するためには、飛鳥・藤原地域ではX座標に+346.5m、Y座標に-261.6m、平城地域ではX座標に+346.4m、Y座標に-261.3mをそれぞれ加えればよい（ともにマイナスの数値のため、Xの絶対値は減少し、Yの絶対値は増加する）。詳細については『紀要 2005』22～23頁を参照されたい。
- 6 発掘遺構は、遺構の種別を示す以下の記号と、一連の番号の組み合わせにより表記する。
SA（塀・柵）、SB（建物）、SC（回廊）、SD（溝）、SE（井戸）、SF（道路）、SG（池）、SK（土坑）、SS（足場）、SY（窯）、SX（その他）
- 7 藤原宮内の地区区分については、『藤原概報 26』（1996、3頁）を参照されたい。
- 8 藤原京の京城は、岸俊男の12条×8坊説（1坊=4町=約265m四方）をこえて広がることが判

明している。本書では、10条×10坊（1坊=16町=約530m四方）の京域を模式的に示した。ただし、混乱を避けるため、条坊呼称はこれまでどおり、便宜的に岸説とその延長呼称を用いている。

- 9 7世紀および藤原宮期の土器の時期区分は、飛鳥Ⅰ～Ⅴとあらわす。詳細については、『藤原報告Ⅱ』（1978、92～100頁）を参照されたい。
- 10 平城宮出土軒瓦・土器の編年は、以下のようにあらわす（括弧内は西暦による略年式）。
軒瓦：第Ⅰ期（708～721）、第Ⅱ期（721～745）、第Ⅲ期（745～757）、第Ⅳ期（757～770）、
第Ⅴ期（770～784）
土器：平城宮土器Ⅰ（710）、Ⅱ（720）、Ⅲ（740）、Ⅳ（760）、Ⅴ（780）、Ⅵ（800）、Ⅶ（825）
- 11 本書の編集は、Ⅰ 石村智、Ⅱ 石橋茂登、Ⅲ 森川実が分担しておこなった。巻頭図版および中扉のデザインは中村一郎が担当した。

機 構 図 (独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所)

平成23年4月1日現在



※
 (平): 平城地区
 (藤): 飛鳥・藤原地区
 (担): 地区担当
 (育): 育児休業中
 (兼): 兼務
 (AF): アソシエイトフェロー
 (取): 事務取扱

BULLETIN
Nara National Research Institute
for Cultural Properties
2011

C O N T E N T S

I Research Reports	1
Department of Planning and Coordination	
The first year after the renewal of the Nara Palace Site Museum	3
Excavation of the southwestern precinct of the Luoyang Imperial Palace site of Northern Wei dynasty, China	6
Archaeological investigation of Western Prasat Top, Angkor, Cambodia (11th, 12th and 13th missions)	8
Architectural investigation of Western Prasat Top, Angkor, Cambodia, 2010	10
Identification and radiocarbon dating of unearthed charcoals from Western Prasat Top, Angkor, Cambodia	12
Research and practice on ESD in the Republic of Fiji Islands: Sustainable tourism and conservation of cultural landscape	14
Department of Cultural Heritage	
City as a cultural landscape: Case studies at Aikawa, Sado and Okazaki, Kyoto	16
Tea industry and its related buildings at Shirakawa in the cultural landscape of Uji	18
Sustainability of cultural landscape: Management and organization toward succession of organic relations	20
Investigation of historical materials related to <i>Myōjin-kō</i> (a Shinto's rite) at Yatsuri, Asuka	22
Comprehensive approach for a site management	28
A research on bamboo hedge of the garden of Katsura-rikyū Imperial Palace	30
Investigation of the Reception Hall of the Chikurin-ji temple, Kōchi Prefecture	32
Survey of historic architecture at Phu Hoi village, Dong Nai Province in southern Viet Nam	34
A research on dismantled members of the Hōryūji temple, part 2: Analysis on pigment of diagonal support boards of the Main Hall	36
Investigation of the Kuramiya Ogino residence, Kumakawa-syuku, Wakasa Town, Fukui Prefecture	38
Garden and landscape of the house of Bansuisō	40
Front lines of research and reconstruction of ancient architecture: International conference on the preservation of architectural heritage of Japan, China and Korea	42
Department of Imperial Palace Sites Investigations	
A research on sword's decorative accessories from the Asuka-ike site	44
A new perspective for examination of embedded-pillar buildings	46
A report of roof tiles and a brick recovered from the Kōdai Minedera kiln site	48
Review meeting for reconstruction of the First Imperial Audience Hall Compound: Study on reconstruction of the First Imperial Audience Hall Compound, part 1	50
Critical review for reconstruction of the East and West Towers and the South Gate: Study on reconstruction of the First Imperial Audience Hall Compound, part 2	52
Comparative study for reconstruction of the Imperial Audience Hall Compound: Study on reconstruction of the First Imperial Audience Hall Compound, part 3	54
A reexamination of archaeological features and artifacts related to metallurgy unearthed in the 33rd and 70th excavations at the Nara Palace site	56
A reexamination of hip rafter cover tiles unearthed from the Nara Palace site	58
A research on eave roof tiles made from the same mold of Nara Capital: Examples of 6308 J and R types in Nara Capital and 01A and B types in the Aki Kokubun-ji temple	60

Examination of iron soles of <i>setta</i> sandal from archaeological contexts of the Edo period and modern era	62
Centre for Archaeological Operations	
Scientific analysis on pigment of the Tentative Main Hall of Tanzan shrine	64
Scientific research and conservation treatment for the artifacts from the Kitora tomb	66
Research on the behavior of water in the Garandoya tomb, part 2	68
A study on corrosion of metal artifacts and their contexts, part 1	70
Investigation of soil environment of <i>mokkan</i> bearing layers, the Nara Palace site:	
Joint project with Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism	72
Bone disease of a horse: An example in the construction period of the Fujiwara Palace site	74
II Excavations at the Asuka and Fujiwara Palaces and other sites	77
1 Excavations at the Fujiwara Palace site	79
Excavation of the eastern Administrative Office sector (no. 162 – 1)	80
Excavation at the inner court of the State Halls Compound sector (no. 163)	82
Report of roof tiles from the Fujiwara Palace site (nos. 128, 132, 142 · 144, 148 and 153)	91
2 Excavations in the Fujiwara Capital site	93
Excavation in East First Wards on Seventh and Eighth Streets (no. 166)	94
Excavation in West Second and Third Wards on Sixth Street (no. 167)	99
Report of a well in West Second Ward on Seventh Street	103
3 Excavations in and around the Asuka area	105
Excavation of the Mizuochi site (no. 165)	106
Excavation of the Amakashi-no-oka Tōroku site (no. 161)	116
Excavations around the Hinokumadera temple (no. 164)	126
Report of buried objects for purification rite unearthed from pit SK 160 at the Sakata-dera temple site	137
III Excavations at the Nara Palace and other sites	141
1 Excavations at the Nara Palace site	143
Scientific analysis on the materials from pit SK 19189 at the eastern Administrative Office sector (no. 440)	144
Excavation of the eastern Administrative Office sector (no. 466)	152
Excavations of the East Palace sector (nos. 446 and 469)	163
2 Excavations in the Nara Capital site and at Nara temples	179
Report of buried objects for purification rite unearthed from the South Gate of the Kōfuku-ji temple (no. 458)	180
Excavations at the former precinct of the Kōfuku-ji temple (nos. 465 and 467)	184
Excavation at the former precinct of the Kōfuku-ji temple (no. 464)	187
Excavation at the former precinct of the Hokke-ji temple (no. 468)	190
Excavation at the Yakushi-ji temple (no. 474)	192
Excavation at the Yasugaoka Hachimangū shrine in the Yakushi-ji temple (no. 475)	195
Excavation at the Eastern Pagoda site of the Kasuga shrine (no. 477)	199
Excavation in Block 16, East Second Ward on First Street (no. 472)	207
Excavation in Blocks 1 and 2, East First Ward on Third Street (no. 478)	208

奈良文化財研究所紀要
2011

発行日 2011年6月15日

編集発行 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

奈良市二条町2丁目9-1

〒630-8577 TEL 0742-30-6752

e-mail jimmu@nabunken.go.jp

URL <http://www.nabunken.jp>

印刷・製本 能登印刷株式会社
